

令和5年度 鹿児島学習定着度調査結果【公表】

鹿児島市立甲東中学校

令和6年1月16日、17日に実施された「鹿児島学習定着度調査」の結果をお知らせします。
(各教科ごとに、本校生徒の課題及び今後の改善策について示しています。)

1 調査の概要

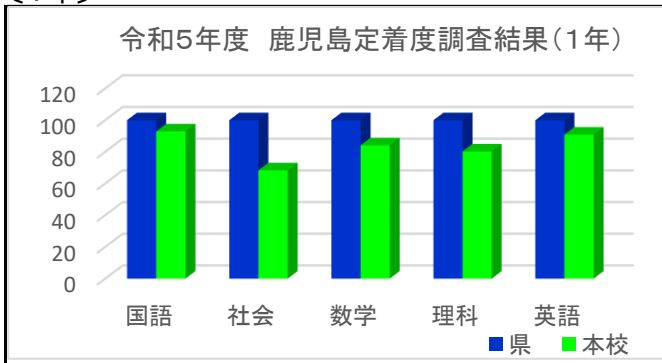
学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等に関する学力状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。また、各学校に全体的な傾向との比較・分析を通じて、自校の課題を明確にし、問題解決的な学習活動を取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導方法改善を図ることを目的として実施するものである。

2 調査の実施日

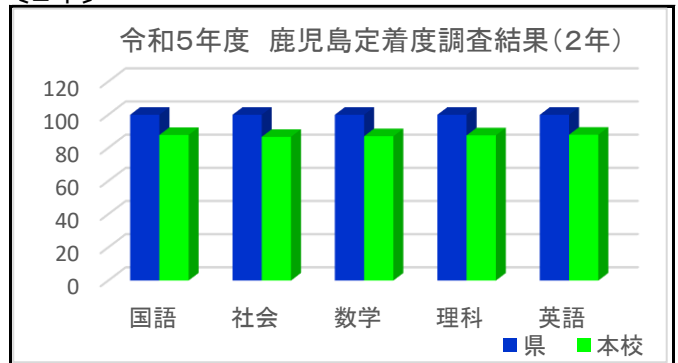
- a 学力検査 令和6年1月16日(火)、17日(水)
 中学1、2年生対象(国語、社会、数学、理科、英語)
- b 学習状況調査 令和5年12月4日(月)・11日(月)

3 本校の各教科結果概況

〔1年〕



〔2年〕



4 各教科の主な課題及び今後の改善策

1 年		2 年	
●基礎学力が不十分である。 →ワーク等を利用し、基礎の確認を徹底する。	国語	●小学校学習漢字の読みができない。 →熟語の読みや訓読みの確認を授業で適時取り組んでいく。	●基礎学力が不十分である。 →自主学習、単元プリントでの確認を徹底する。
●記述問題の無答率が高い。 →作文を書く機会を増やし、苦手意識を払拭するよう努める。		●動詞の活用が理解できていない。 →文法の学習時に、繰り返し復習をする。	
●資料の読み取り、文章の説明が不十分。 →かごしまWebや単元テストを利用し、書くことに慣れさせる。	社会	●基礎学力が不十分である。 →自主学習、単元プリントでの確認を徹底する。	●資料の読み取り、文章の説明が不十分。 →かごしまWebや単元テストを利用し、書くことに慣れさせる。
●基礎学力が不十分である。 →問題文を読み、適切な解答をする練習をする(長期休業中の課題等)		●文章題から適切な用語や数量を抽出することに課題がある。 →文章で表現し、伝える活動を多く設定する。	
●文章や図の中から適切な用語や数量を抽出することに課題がある。 →考え方や求め方を、根拠をもとに文章で表現する場面を設定する。	数学	●様々な公式を次の単元へと応用することに課題がある。 →考え方や求め方を、根拠をもとに説明する場面を継続して設定する。	●科学的な思考を問われる問題の正答率が低い。 →実験結果の意味を考え、説明する場面を多く設定する。
●基本的な計算力が不十分である。 →ISHIN TIMEや小テストなどで定着を図る。		●エネルギー分野の基本事項の通過率が低い。 →ISHIN TIMEや小テストなどで繰り返し学習し定着を図る。	
●基本的な用語を理解していない。正確に書けない。 →ISHIN TIMEや小テストなどで定着を図る。	理科	●書く力の正確性に課題がある。 →音読練習を充実させ、英語のリズムで発話できるトレーニングを増やす。	●文のルール(時制・前置詞など)の知識が正確に身につけていない。 →ISHIN TIMEでの単語指導にプラスして、英文の構造についてのトレーニングも取り入れる。
●地学分野・エネルギー分野・化学分野の定着・通過率が低い。 →理科的なものの見方や考え方を高める学習の仕方を工夫する。		●正確な語順が定着していない。 →授業の帯学習で正しい文章で話したり書いたりする時間を設定する。	
●基本的な単語を正しく綴ることができない。 →家庭学習に取り組むことで正確な綴りを定着させ、小テストなどで定着を図る。	英語		
●正確な語順が定着していない。 →授業の帯学習で正しい文章で話したり書いたりする時間を設定する。			

5 今年度取り組んでいる学力向上策

- 校内職員研修のテーマを「主体的・対話的で深い学びの充実を目指す授業実践」とし、研究授業を通してよりよい授業の在り方について研修を深めています。その際、全職員で共通の「授業改善の視点」を設け、各教科の指導力向上につなげています。
- 「ISHIN TIME」という基礎・基本の定着を図る時間を土曜授業などを中心に設定し、生徒同士の学び合いの時間を取り入れながら、学力向上につなげています。
- 各種検定(英語検定、漢字検定)への積極的な挑戦を促しています。また、PTA会費から検定料の一部を助成し、学力向上につなげています。
- 一学校一改革に「GIGAスクール構想でタブレットPCを文房具のように使う」を掲げ、ICT機器を効果的に活用した授業づくりの研究に取り組んでいます。